

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県・北九州市 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	北九州市立吉田中学校 2年（139名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。 ・ ゴールボールの選手の方の話を聞いたり、競技体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践『やさしさのある まちづくり』を活用して、福祉はだれのためなのか、人にやさしいまちづくり等について考えさせる。 ・ 体験学習 福祉施設の方々の協力を得て、車椅子の使用体験や高齢者疑似体験を行い、それぞれの人の立場に立って考えさせる。 ・ 授業実践 ゴールボールについて知る。 <p>【体験会 講演会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールボールの競技者から話を聞き、競技体験を行う ・ 講話や体験を通して、人間の強さ・生きがい・仲間・豊かな生活等について考えさせる。 ※講演会のみ参加（1学年 127名）
	  



【事後学習】

・友達と意見交流する中で、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養わせる。

6 主な成果

多くの生徒が未経験であったゴールボールを体験して、本競技への興味・関心を抱くとともに、競技の難しさ等から声かけやコミュニケーションが大切であることを実感した。さらに、講演会ではしょうがいという現実に向き合いながらも努力すること、あきらめないことのすばらしさについて考えた生徒も多いた。

メダリストのメダルへの思いを直に聞き、メダルに触れることから、その思いをいつも以上に感じ取っている生徒もいた。

<生徒の感想より>

- ・自分で限界を決めて終わらせるのではなく、世界を目指す姿はカッコよかったです。
- ・自分にもしょうがいがあるが、他の人を助ける気持ち、いろいろなこと（現実）に向き合わないといけないことに気づくことができました。
- ・「1回の練習でうまくなると思っていない、何回も何百回も何万回も練習して、うまくなると思っている私は…」の言葉が一番印象に残っています。たくさんの努力が今につながっていると思いました。目標に向かってこれから頑張りたい。
- ・今までゴールボールを知らなかったけれど、2020東京大会ではゴールボール日本代表を是非応援したい。

7実践において工夫した点（事業の特色）

多くの生徒が未経験なゴールボールを通して、オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高めることができた。また、その体験から声かけやコミュニケーションの大切さを感じ取ることができた。さらに、メダリストの講演を聴き、その大切さや今あることへの感謝について自分のこととして捉え、感謝を言葉にすることが重要であることにも気づくことができた。

体験と講演会をつなげることで、子どもたちが実感し、より深く考える機会となった。

8主な課題等

本事業の取組につなげるためのカリキュラムマネジメントをすすめる必要がある。取組への事前・事後学習を教科等の横断的な視点から計画的にすすめてことで、よりよい成果が得られるはずである。

また、子どもたちが感じたことをより継続させ広げ・深めていくためにも、体験会や講演会に保護者が参観できる機会を設けるようにしたい。

9来年度以降の実施予定

2020年東京大会までは、少なくとも継続的に本事業にかかわることで、より充実したオリンピック・パラリンピック教育となる。

オリンピック・パラリンピック教育の学習テーマを多面的・多角的捉えて来年度以降取組を進めていきたい。